

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成13年11月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、県民の健やかな子育てを目的に、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」（以下、「育児もしもしキャッチ」）を開設している。

開設当初は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成15年5月より火曜日から土曜日に相談日を開設している。

「育児もしもしキャッチ」

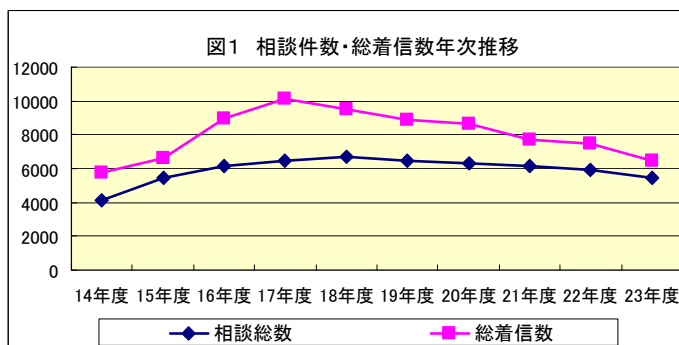
主な相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の母等を対象に、健康や育児について
開設日時	火曜日から土曜日 午後5時から午後9時まで（4時間）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員が、毎回2～3人で対応
相談体制	当センターの保健師1名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談終了時に相談者の住所、相談経路は聞いている。電話相談員が相談記録を記載し、予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。

【平成23年度の事業内容】

平成23年4月1日から平成24年3月31日までに寄せられた相談情報を保健部門のシステムに入力し、地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

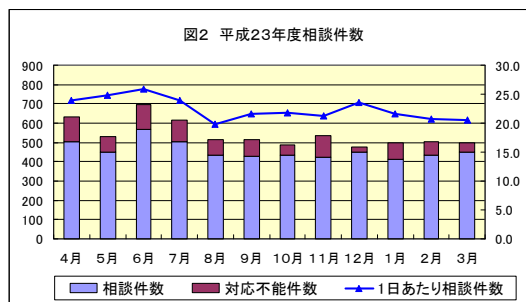
1 相談総数・総着信数について

期間中の相談総数は5,488件、総着信数（電話に応答中のため応答できなかった件数をあわせたもの）は6,504件であった。相談件数は昨年度より472件減少しており、平成14年度からの相談件数・総着信数の推移をみると、開設から平成18年度まで増加したものの、その後相談件数は平準状態から減少の傾向にある。また平成17年度以降は、これにまして総着信数が大きく減少している。その結果、対応不能件数は1,016件で昨年度の1,510件より494件減少している



ものの依然として16%の相談に対応不能の状態である（図1）。

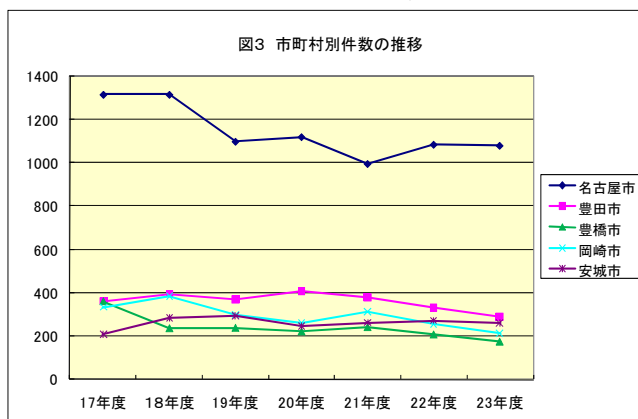
月別相談件数は、当然ながら稼働日数の少ない5月は少なく、対応不能件数は、前半616件、後半400件と減少している。1日あたりの件数では、例年8月は少なく、風邪症状など生じやすい時期に増加する傾向であったが、本年度はあまり増加が見られなかった（図2）。



2 地域・経路について

(1) 利用者の居住地について

相談者の居住地が把握できた5,348件を分析した。相談は県下ほぼ全域から寄せられおり、市町村別では、名古屋市からの相談件数が1,081件と最多で豊田市、安城市、一宮市、大府市、岡崎市、春日井市、豊橋市と続いた。名古屋市では、平成19年度「子どもあんしん電話相談」が開設されたため件数の大幅な減少が見られた（図3）。出生1,000に対する割合をみると、最も高いのは大府市の224.4（昨年度181.2）で身近な相談場所として捉えられているものと考えられる。次に弥富市の183.5（昨年度273.4）であるが、頻回相談者と思われるケースが居住しているためである。それ以外では、津島市171.5（昨年度231.8）、次いで日進市137.7、安城市131.2、東海市130.2の順で高率であった（資料：表1）。



（図3）。出生1,000に対する割合をみると、最も高いのは大府市の224.4（昨年度181.2）で身近な相談場所として捉えられているものと考えられる。次に弥富市の183.5（昨年度273.4）であるが、頻回相談者と思われるケースが居住しているためである。それ以外では、津島市171.5（昨年度231.8）、次いで日進市137.7、安城市131.2、東海市130.2の順で高率であった（資料：表1）。

(2) 経路について

相談全体では「利用経験あり」が2,725件（45.7%）で最も多かった。「利用経験あり」は相談を開設した平成14年度（平成13年11月から15年3月、以下同じ）は2.2%であったが、その後年々増加し、平成18年の54.2%をピークに減少の傾向を示している（後述）。

初回相談者が相談電話の情報を入手した方法は、市町村（保健福祉）からが13.9%、母子手帳交付時からが12.2%、保健所4.9%などと、保健機関からの情報によるものが初回相談者の半数以上を占めていた。これは、市町村等に「案内カード」の配布協力を得ていることに起因している。インターネットの普及からホームページからの割合も増加傾向にあり、県外からの相談47件のうち6件（12.8%）を占めている（資料：表2）。

なお、「案内カード」については、名古屋市を含む県内54市町村（平成23年

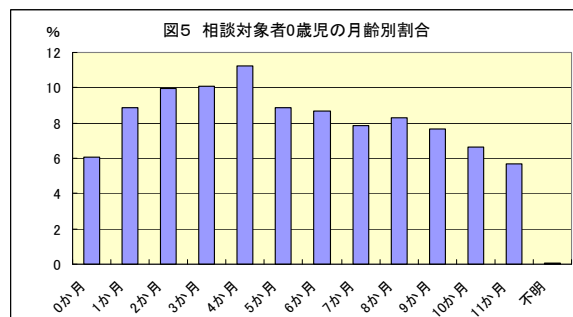
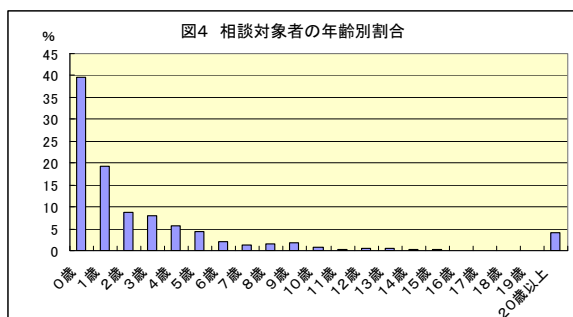
4月現在)中、28市町村(51.9%)が母子手帳交付時に配布しており、早期配布が増えた。18市町村(33.3%)が乳幼児健診で全員に配布しているが、その他では自由に持ち帰る形の配布方法をとる場合もある。また、「こんにちは赤ちゃん訪問」「全戸訪問」等の訪問時に配布等、全市町村で活用されている。また、市町村によっては育児情報の冊子作成時に相談機関として掲載する等の周知方法もとられている。

3 相談者・相談対象者について

相談記録では、相談者(電話をかけてきた人)の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門家、その他と分類しているが、母からの相談が92.3%と最も多かった。(資料:表3)。

相談対象者は「子ども」が5,212件(95.0%)で最も多く、「孫、姪、甥」の25件(0.4%)を加えた「子ども」の相談は5,237件(95.4%)であった。「本人」についての相談(母自身のことに関する相談など)は235件(3.7%)であり、経年的にみてもほぼ4%前後の相談がある。(資料:表4)。

相談対象者の年齢では、0歳が2,172件39.6%と最も多く、経年的にみても40%前後と変わりはない。0歳に次いで、1歳が19.3%、2歳が8.7%と年齢が増えるに従って減少している(図4)。0歳児の内訳を見ると4か月頃をピークに増減しており、経年的に見ても同様の傾向であった(図5)。



4 相談の時間帯・所要時間・曜日について

(1) 時間帯・所要時間について

相談の時間帯は19時台1,439件(26.2%)と最も多く、次いで17時台が1,336件(24.3%)であった。

相談の所要時間は、15分未満が4,408件80.3%で、そのうち5~14分が5割強を占めていた。1回の相談の平均所要時間は10分であった。最長の相談は89分、育児不安で家族・人間関係に悩む終始泣きながらの相談への対応であった(資料:表5)。

(2) 曜日について

曜日別に1日あたりの相談件数をみると火曜日23.4件、水曜日22.8件、木曜日23.4件、金曜日が21.6件、平成15年5月から開設している土曜日は20.8件と少ない(資料:表6)。

5 相談内容について

(1) 相談内容について

相談員が相談記録作成時に分類した相談内容では、「育児相談」が 5,215 件 (95.0%) と圧倒的に多く、次いで女性の心と体の相談 101 件 (1.8%) が年々増加してきており、本年度も昨年度同様に母性相談 65 件 (1.2%) の割合を抜いて 2 番目に多かった (資料: 表 7)。

「育児相談」5,215 件の内訳は「子どもの病気、手当て」が 2,513 件 (48.2%) と最も多く、次いで「事故相談」の 779 件 (14.9%)、「日常生活」の 404 件 (7.7%)、「家族・人間関係」373 件 (7.2%) であった。

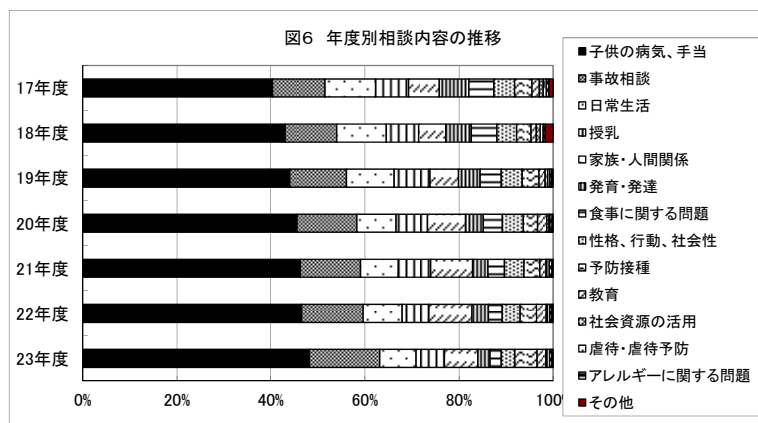
曜日別では、土曜日の「子どもの病気、手当て」の相談の割合 59.9% は他の曜日の平均 45.4% と比べ 14.5% 高く、「事故相談」は 11.5% と他の曜日の平均 15.8% より 4.3% 少なく、「家族・人間関係」は他の曜日の平均 7.7% と比べ 4.6% と 4.1% 低く、土曜日は他の曜日と相談内容の構成が異なる (資料: 表 8)。

(2) 育児相談の内容について

本年度の育児相談 5,215 件の主な内容について資料: 表 9 に示した。

過去 7 年間の育児相談内容の推移から、日常生活、授乳、食事などの子の世話の割合が減少しており、育

児相談の内容の変遷の様子が伺われる (図 6)。



1) 「子どもの病気、手当て」 2,513 件 (48.2%)

その時に起きているかぜや消化器、皮膚症状等について、具体的な手当てへのアドバイス、受診の要否についての相談が多かった。また、処方された薬の飲ませ方、使い方等の薬に関する相談 43 件も含まれている。

<相談例>

- ・ 2 週間目の児、熱はなくミルクもよく飲んでくれる。咳が朝晩出て心配。
- ・ 6 か月児、初めて鼻汁・咳あり、熱はない。母乳は普段通り飲めているが明日は母に仕事があり職場に本児を連れていってもよいか。
- ・ 7 か月児、昨日から下痢様の便でお尻が赤くなってしまい泣いている。どうしたらよいか。
- ・ 3 歳児、インフルエンザでタミフルを 18 時に内服させた。今、呂律が回らない感じで暴れるが病院へ行った方がよいか。
- ・ 4 歳児、嘔吐のため受診し胃腸風邪と診断。生まれて初めて吐いたので心配。寝ていて嘔吐したら窒息するか。無理に食べさせた方がよいのか。

受診すべきか、どう行動すべきか意思決定をするための相談が多い。子の症状を前に、「今すぐ受診すべきか」「どのような状態だったら受診したほうがよいのか。」「どのように手当てしてよいか。」「どこで診てもらえるのか。」など、戸惑う母親の不安を受け止め、母自身が納得して対応できるように、次にも活かせる情報提供を行い、手助けをしている。また、「受診し服薬はしているが、熱が下がらない。」「処方された薬をこのまま飲ませてよいか」「食事はどのようなものを食べさせたらよいか。」など、病中、病後の児のケアの専門的知識に加え、身近な経験者からでも情報入手できそうな一般的な情報についても、相談者のニーズに応え、助言・情報提供している。

電話で受診の要否を判断することは難しいが、相談者自身がどうしたいかを頭に描いて、相談してきている場合も少なくない。相談を受ける側として、なぜ電話をしてきたのか、それに対して相談者自身はどう考えているのかをよく聴き、症状や受診状況等を出来るだけ冷静かつ具体的に質問することで、相談者に観察のポイントとしての理解を促し、互いに総合的な観察と判断ができるよう対応を心がけている。

今年度は、日本小児保健協会が実施した「平成 23 年度小児救急電話相談スキルアップ研修」に当センターで従事している相談員も多数参加し、電話相談における聴き方の技法や医療者に陥りやすい考え方を学ぶ機会を得、研鑽を積んでいる。

2) 「事故相談」 779 件 (14.9%)

「誤飲・誤嚥」が 292 件 (37.5%) と最も多かった。また、事故相談全体で 1 歳未満の子どもについての相談が 244 件 (31.9%) を占めている。

< 誤飲・誤嚥したもの >

食品 (魚の骨、生肉、古い食べ物、アルコール等)	64 件
文具類 (紙類、ビニール、風船、クレヨン、糊など)	50 件
医薬品 (消毒薬、軟膏、錠剤等)	47 件
プラスチック (包装用品、玩具の一部等)	30 件
生活用品 (非化学製品)	19 件
洗剤	17 件
生活用品 (化学製品、防虫剤等)	9 件
たばこ	6 件
電池	5 件

- ・「食品」での 0 歳児では「ビスケットや離乳食の白菜が喉に詰まった。」があった。パン、ビスケット類は気をつけたい食品である。1 歳以降では、「魚の骨が刺さった。」「生肉を食べた。」「古い食べ物」「果実の種」等であった。2 歳児の針先 1mm くらいを飲んだという例もあった。
- ・「医薬品」では 0 歳、1 歳児で「軟膏類を舐めた」が多く、「大人、上の子の薬を飲ませた。」等過剰摂取になったものも多く、祖母の降圧剤をかじっていたケースでは、救急受診を勧めた。
- ・「転倒」は、122 件中、居室での転倒が 67 件 (55.0%) と多く、道路、風

呂と続く。歯ブラシを持ちながら転倒し、口が切れたケースもあった。
 ・「転落」は 145 件で、椅子 41 件、家具 40 件、階段からの転落も 13 件あったが大事には至らなかった。

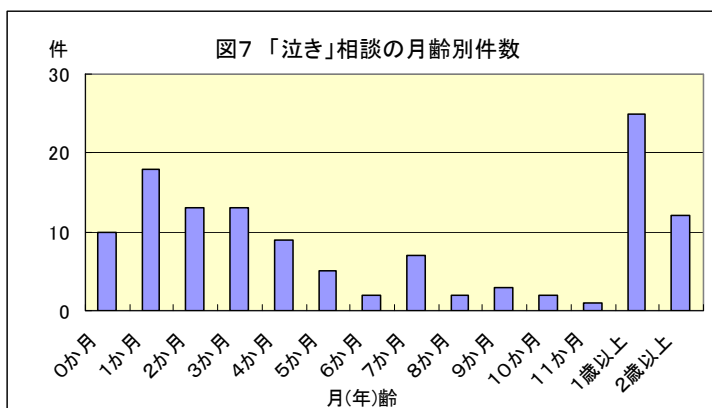
保護者の事故に対する焦りに寄り添い、起きてしまったことを責めずに、まずは状況を的確に捉えて、冷静な対応を促す。落ち着きを取り戻させ、思いがけないことが起こり得ることの理解や、キーワードとなる『ちょっと目を放した隙』『疲れていた時』等についての意識と、発達段階に合わせた次に起こりうる事故についての情報提供をする等、再発防止について伝えている。

事故相談が占める割合は微増しており、広く啓発の必要があると感じる。

3) 「日常生活」404 件 (7.7%)

「泣き」についての相談が 122 件 (30.2%) と最も多く、0 歳児の相談が 85 件 (70.0%)、中でも 1~2 か月の相談が多く見られる (図 7)。生後 6

週間頃から多く見られるようになる『揺さぶられ症候群』との関連が懸念されるため、その相談への対応は技術的に高いものが要求される。



<相談例>

- ・ 1 か月児、抱っこしていないと泣く。母乳は、1日 14 回。大声でいつも泣いており、イライラして育児が嫌になってしまう。他症状はない。
- ・ 3 か月児、夕方から泣きやまない。こんなに長く泣いていたことはない。泣き過ぎて息が止まることがある。どうしたら泣きやむのか。
- ・ 7 か月半児、いつもよりぐずるので心配。昼前から機嫌が悪い。
- ・ 1 歳 4 か月児、1 時間くらい泣きっ放し。眠れなくて泣いている。

『泣く』という子どもの行動から要求を読み取り、適切に対応することは大変難しくストレスを伴う。児が泣くことで、冷静でいられなくなっている場合も多く、まず、相談者の気持ちを落ち着かせるため、安全な場所、環境に子どもを離すことを指示することもあり、電話口で抱き方を指示しながら落ち着かせることもある。相談者の緊急度の状況に応じたアドバイスを心がけている。本年度、県が作成した『パープルライジング』のDVDの市町村等での活用により、『泣き』に対する理解と適切な対応について保護者があらかじめ知っておく機会ができることが、今後、期待できる。

また、「睡眠」が 38 件 (9.4%)、「しつけ」「トイレトレーニング」「入浴・清潔」各 32 件 (7.9%) と続く。これらの基本的な生活習慣に関する

相談が減っていることは、これらを身につけるために子どもの世話をすることが減ってきていることを示すのではないかと危惧される。

4) 「家族・人間関係」 373 件 (7.2%)

「育児不安」が 278 件 (74.5%) で最も多く、次いで多いのは「家族内の人間関係」46 件 (12.2%)、「近所との付き合い」35 件 (9.4%) と続く。

母自身がうつ病を持ちながらの育児で児の些細ことでも気になり、年間を通して約 40 件もの相談をしてくる例などもある。自分の育児に自信が持てず、周りにも相談できる人や機関がなく、夫も育児に関心がない等孤立している様子が伺われる。匿名で相談でき、顔が見えないから「イライラする」「手をあげてしまった」等の相談もできる機関として活用されている。相談者に対し、気持ちに共感し、受け止める姿勢で聴き、誰にでも起こり得ることで話してくれたことが解決の一步であり、その助けができるのは、身近な日中の相談機関であることも伝えている。

「家族・人間関係」では、275 件 (73.7%) が「利用経験あり」の方で、そのうち 7 歳以上の子を持つ親や親自身からの相談が 154 件 (41.3%) であった。就学以降は身近な保健センター等に相談する機会が少なく、子どもが大きくなっても、子育ての大変さや不安はとどまることがないため、常に思い惑う親たちの気持ちを聞ける場として時間外電話相談は活用されている。

5) 「授乳」 313 件 (6.0%)

「授乳方法」に関する相談が 84 件 (26.9%) と多く、内容は授乳間隔や回数、授乳量のムラ、離乳食との併用量に関するものが主であった。次いで「吐乳・溢乳」67 件 (21.4%)、乳汁を飲まない 30 件 (9.6%) と続く。授乳に関する「その他」に分類される中に、『授乳と薬』『母の病気と授乳』が 56 件 (17.9%) あり、年々、この相談の割合が増えている。体調が悪いつらさに加え、授乳に悩むつらさが伺われる。市販の薬はもとより大半の薬剤が母の体調を優先してよいことを科学的根拠に基づいた手引書を参考にしたり、研修で得た情報を共有するなどし、適切に助言できるよう相談の質の向上を図っている。

<相談例>

- ・ 生後 2 週間目の児。母が昨日から発熱と咽の痛みと下痢。風邪薬を内服し、母乳は一時中止。乳房痛はないが母乳搾乳が辛い。母乳は与えてもよいか。
- ・ 6 か月児に授乳中の母、月経前になるとイライラして、つつい子どもに大きな声を出したり、落ち込んだりしてしまう。月経痛もひどいが鎮痛剤は飲んでも大丈夫か？

6) その他

「虐待・虐待予防」は 28 件 (0.5%) であり件数は昨年度同等であった。「子どもを叩いてしまった。このままエスカレートして子どもを殺してしまいそうで怖い」という心配を抱え、それでも止まらない気持ちを話す場として活用されている。地域の相談機関である児童相談センターや保健セ

ンター等にも繋がっているものの、不安が募り、この時間帯に相談をしていく事例や相談機関の批判を口にする事例等も見受けられる。

匿名相談のため、まずは相談者の訴えを受け止め、相談できたことを高く評価することを基本にしている。

6 相談結果について

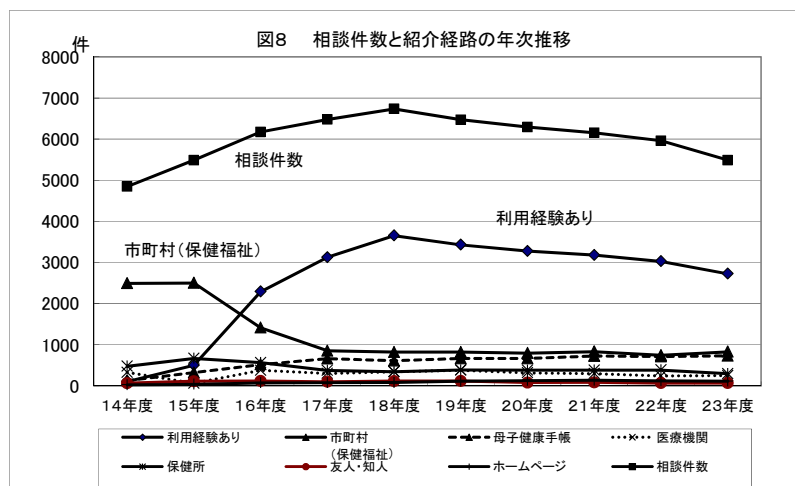
電話相談は原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある場合も継続支援とはしていない。したがって、頻回相談者の場合でも、利用経験があることの申告がない限り、初めて話を聞くのと同様な対応をしている。

内容により、緊急性が高く、地域での支援が必要と思われるケースについては、居住地、氏名について聴取し、同意を得た上で地域の保健機関等への情報提供を行っている。

7 相談利用者からの相談の推移

相談件数の推移をみると18年度をピークとしてその後は減少傾向にある。

これを初回相談の場合の紹介経路（電話相談情報の入手方法）と相談利用者からの相談に分けて分析した。平成13年度の途中から事業が始まったため、当初は



市町村（保健福祉）で配布された「案内カード」による相談が最多であったが、平成16年度には「利用経験あり」がその割合を越え、18年度には3,652件（54.2%）と半数以上を占め、その後も半数程度の割合を占めている。平成17年度以降は、初回相談の相談件数はほぼ平準化しているが、「利用経験あり」の件数は徐々に減少し、ほぼその件数の総相談件数が減少している傾向を認めた。つまり「利用経験あり」相談件数の減少が、総相談件数減少の主要因と考えられた（資料：表2、図8）。

ただ減少傾向ではあっても、「利用経験あり」は本年度2,725件（45.7%）とほぼ半数を占めている。また相談の内容別にみると、「教育」に関する相談は75.5%を「利用経験あり」が占め最も高く、「家族・人間関係」の相談の73.7%、「性格、行動、社会性」「発育・発達」「食事に関する問題」「日常生活」の項目で50%以上を占めていた。つまり、一度相談した経験から、就園、

就学後も子どもについての相談先と位置づけられ、活用されている。初回相談で、「ここに電話すれば相談にのってもらえる。」と安心感を与えられる良い印象の相談となるよう、ひとつひとつを丁寧に、相手を尊重した相談を実践できるよう電話相談の質の向上を図っていきたい。

しかし、対応不能件数は本年度も依然 1,016 件（15.6%）を占めた。経年的には平成 17 年度の 3,659 件をピークに減少し、昨年度の 1,510 件からも 434 件減少してはいるものの、今なおニーズに応えられない状況にある。利用経験者からの相談が減少している原因として、この状況の改善をしてこなかったことが影響している可能性がある。対応不能の要因は、相談員が予定通り充足されないこと、相談集中時の回線数不足であることが明らかである。

また時間外電話相談利用者は母がほとんどであったが、父からの相談も相談開設当初と比べ、明らかに多くなってきている。『イクメン』と称される育児参加する父の増加が社会的にも認められている。また、残業も減り、家庭で過ごす父が増えることも、母の相談相手がいることで不安の払拭ができ、相談件数の減少に影響した可能性も考えられる。

本事業は、厚生労働省が『小児救急電話相談事業（#8000）』を開始する以前からスタートし、小児救急に関する相談と子育てに関する相談の双方のニーズに応じてきた。愛知県では、#8000 事業は平成 17 年度から開始され土日や祝日を中心に運用されてきたが、こちらも対応不能件数は少なくなかった。当センターの事業とは、目的も運営方法も異なるものではあるが、住民にとって相談ニーズが充足されてこなかった事実がある。愛知県の#8000 事業は平日対応を平成 23 年 7 月～8 月に試行し、平成 24 年度からは 365 日の対応となる。当センターの事業とともに、ますます孤立する子育てのサポート資源として充足を期待したい。

8 まとめ

平成 23 年度の時間外電話相談事業の相談結果について入力されたデータに基づいて分析した。

子どもの病気や事故に関する相談が半数以上を占め、その割合は本年度も増加を認めた。一方、繰り返し利用する相談者に多い子育てに関する相談は漸減の傾向を示していた。開設当初からの課題であったすべての相談に対応できない状況は依然続いており、相談件数や着信件数の減少傾向に影響している可能性がある。

本事業は平成 13 年度のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、今後も継続する必然性がある。

表1 市町村別の利用状況

資料

	市町村	件数	出生 1,000対	H22 出生数		市町村	件数	出生 1,000対	H22 出生数
1	名古屋市	1,081	53.7	20,125	29	碧南市	51	73.6	693
2	豊田市	289	67.4	4,286	30	尾張旭市	50	69.4	720
3	安城市	260	131.2	1,981	31	蒲郡市	48	77.4	620
4	大府市	234	224.4	1,043	32	みよし市	47	73.3	641
5	一宮市	234	69.1	3,388	33	岩倉市	46	93.5	492
6	岡崎市	215	55.9	3,844	34	田原市	46	86.5	532
7	春日井市	198	63.0	3,142	35	東浦町	45	107.7	418
8	豊橋市	174	50.6	3,436	36	江南市	41	52.6	780
9	東海市	157	130.2	1,206	37	武豊町	39	104.6	373
10	刈谷市	149	85.8	1,736	38	大治町	37	103.6	357
11	西尾市	146	99.5	1,468	39	愛西市	36	82.6	436
12	日進市	130	137.7	944	40	高浜市	34	73.4	463
13	半田市	123	102.3	1,202	41	幸田町	30	66.1	454
14	豊川市	118	70.8	1,666	42	扶桑町	27	79.4	340
15	稲沢市	112	96.7	1,158	43	犬山市	25	39.7	630
16	知多市	100	127.1	787	44	新城市	19	62.9	302
17	津島市	95	171.5	554	45	南知多町	17	125.0	136
18	清須市	92	115.3	798	46	阿久比町	16	64.5	248
19	知立市	89	118.5	751	47	大口町	14	60.1	233
20	あま市	83	102.0	814	48	蟹江町	13	38.0	342
21	弥富市	78	183.5	425	49	豊山町	12	73.2	164
22	北名古屋市	71	77.1	921	50	美浜町	11	72.4	152
23	豊明市	67	115.9	578	51	飛島村	3	93.8	32
24	長久手町・市	60	92.2	651	52	東栄町	2	117.6	17
25	小牧市	55	39.0	1,411	53	設楽町	0	0.0	29
26	東郷町	53	108.2	490	54	豊根村	0	0.0	3
27	常滑市	53	107.3	494		県内不明	25	0.5	49,747
28	瀬戸市	51	52.8	966		愛知県下 (含名古屋市)	5,301	106.6	49,747
						他県	47		
						不明	140		
						合計	5,488		

表2 年度別経路

経路	利用経験あり	市町村(保健福祉)	母子健康手帳	医療機関	保健所	友人・知人	ホームページ	子育て支援センター	院内	幼稚園・保育園等	学校	児童相談センター	その他	不明	計
14年度※	105 (2.2)	2492 (51.4)	128 (2.6)	328 (6.8)	475 (9.8)	66 (1.4)	25 (0.5)	37 (0.8)	53 (1.1)	52 (1.1)	3 (0.1)	19 (0.3)	155 (3.6)	908 (18.7)	4846 (100.0)
15年度	501 (9.1)	2,500 (45.6)	322 (5.9)	63 (1.1)	667 (9.8)	113 (2.1)	36 (0.7)	16 (0.3)	8 (0.1)	667 (12.2)	49 (0.9)	16 (0.4)	204 (3.7)	430 (7.8)	5,488 (100.0)
16年度	2290 (37.1)	1414 (22.9)	517 (8.4)	377 (6.1)	565 (9.1)	119 (1.9)	74 (1.2)	35 (0.6)	80 (1.3)	21 (0.3)	5 (0.1)	10 (0.2)	220 (3.6)	448 (7.3)	6,175 (100.0)
17年度	3,124 (48.2)	854 (13.2)	661 (10.2)	303 (4.7)	376 (5.8)	102 (1.6)	76 (1.2)	24 (0.4)	69 (1.1)	19 (0.3)	11 (0.2)	7 (0.1)	175 (2.6)	677 (10.4)	6,478 (100.0)
18年度	3,652 (54.2)	821 (12.2)	611 (9.1)	343 (5.1)	340 (5.0)	118 (1.8)	81 (1.2)	43 (0.6)	32 (0.5)	6 (0.1)	4 (0.1)	9 (0.1)	121 (1.8)	554 (8.2)	6,735 (100.0)
19年度	3,429 (53.0)	821 (12.7)	666 (10.3)	379 (5.9)	387 (6.0)	120 (1.9)	112 (1.7)	35 (0.5)	45 (0.7)	7 (0.1)	2 (0.0)	4 (0.1)	52 (0.8)	412 (6.4)	6,471 (100.0)
20年度	3,276 (52.0)	796 (12.6)	665 (10.6)	315 (5.0)	383 (6.1)	80 (1.3)	129 (2.0)	40 (0.6)	35 (0.6)	3 (0.0)	3 (0.0)	3 (0.0)	74 (1.2)	492 (7.8)	6,294 (100.0)
21年度	3,180 (51.7)	832 (13.5)	725 (11.8)	297 (4.8)	382 (6.2)	84 (1.4)	135 (2.2)	23 (0.4)	13 (0.2)	7 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.0)	52 (0.8)	416 (6.8)	6,153 (100.0)
22年度	3,027 (50.8)	743 (12.5)	711 (11.9)	240 (4.0)	385 (6.5)	68 (1.1)	122 (2.0)	27 (0.5)	9 (0.2)	8 (0.1)	4 (0.1)	4 (0.1)	41 (0.7)	571 (9.6)	5,960 (96.9)
23年度	2,725 (45.7)	828 (13.9)	730 (12.2)	250 (4.2)	295 (4.9)	68 (1.1)	113 (1.9)	29 (0.5)	18 (0.3)	10 (0.2)	2 (0.0)	1 (0.0)	39 (0.7)	380 (6.4)	5,488 (100.0)

※13年11月から15年3月までの集計値

表3 相談者の続柄

相談者続柄	件数	
母	5,066	92.3%
本人	233	3.7%
父	132	2.1%
祖父母等	25	0.4%
配偶者	14	0.2%
きょうだい	1	0.0%
専門家等	2	0.0%
その他	13	0.2%
不明	2	0.0%
合計	5,488	100.0%

表4 相談対象者

	件数	
子ども	5,212	95.0%
本人	235	3.7%
孫・甥・姪等	25	0.4%
配偶者	7	0.1%
きょうだい	1	0.0%
患者等	0	0.0%
その他	6	0.1%
不明	2	0.0%
総計	5,488	100.0%

表5 時間帯と所要時間

所要時間	17時台	18時台	19時台	20時台	不明	合計
5分未満	301 22.5%	337 26.2%	398 27.7%	453 32.4%	5 17.2%	1,494 27.2%
5～14分	707 52.9%	685 53.2%	797 55.4%	713 51.0%	12 41.4%	2,914 53.1%
15～29分	207 15.5%	195 15.2%	176 12.2%	173 12.4%	6 20.7%	757 13.8%
30～44分	84 6.3%	47 3.7%	50 3.5%	52 3.7%	1 3.4%	234 4.3%
45～59分	27 2.0%	16 1.2%	12 0.8%	5 0.4%	0 0.0%	60 1.1%
60分以上	10 0.7%	7 0.4%	6 0.4%	1 0.1%	5 50.0%	29 0.5%
全体	1,336 24.3%	1,287 23.5%	1,439 26.2%	1,397 25.5%	29 0.5%	5,488 100.0%

表6 曜日別状況

	件数(平均件数)						全体
	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	月曜日	
H15年度以前※	2,802 19.3%	3,162 21.8%	3,341 23.1%	3,037 21.0%	502 3.5%	1,684 11.6%	14,492 100.0%
H16年度	1,264 20.5%	1,423 23.0%	1,349 21.8%	1,277 20.7%	862 14.0%		6,175 100.0%
H17年度	1,359 21.0%	1,438 22.2%	1,349 20.8%	1,267 19.6%	1,065 16.4%		6,478 100.0%
H18年度	1,289 19.1%	1,425 21.2%	1,506 22.4%	1,320 19.6%	1,195 17.7%		6,735 100.0%
H19年度	1,221 18.9%	1,480 22.9%	1,395 21.6%	1,262 19.5%	1,113 17.2%		6,471 100.0%
H20年度 (1日平均件数)	1,160 (27.6) 18.4%	1,365 (27.9) 21.7%	1,406 (27.6) 22.3%	1,223 (24.5) 19.4%	1,137 (22.3) 18.1%		6,294 (25.9) 100.0%
H21年度 (1日平均件数)	1,159 (27.0) 18.8%	1,321 (27.5) 21.5%	1,301 (27.1) 21.1%	1,255 (24.6) 20.4%	1,117 (21.9) 18.2%		6,153 (25.5) 100.0%
H22年度 (1日平均件数)	1,163 (25.8) 19.5%	1,239 (25.3) 20.1%	1,290 (26.9) 21.0%	1,191 (23.8) 19.4%	1,077 (21.1) 17.5%		5,960 (24.5) 96.9%
H23年度 (1日平均件数)	1,055 (23.4) 19.2%	1,165 (22.8) 21.2%	1,149 (23.4) 20.9%	1,056 (21.6) 19.2%	1,063 (20.8) 19.4%		5,488 (22.4) 89.2%

※月～金で実施

表7 相談分類

相談分類	件数	割合
育児相談	5,215	95.0%
母性相談	65	1.2%
女性の心と体の相談	101	1.8%
思春期相談	9	0.2%
その他	98	1.8%
合計	5,488	100.0%

表8 育児相談の曜日別状況

内容	全体		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
子供の病気、手当	2,513	48.2%	460	46.7%	479	42.9%	504	46.4%	461	45.7%	609	59.9%
事故相談	779	14.9%	160	16.2%	182	16.3%	168	15.5%	152	15.1%	117	11.5%
日常生活	404	7.7%	78	7.9%	88	7.9%	88	8.1%	88	8.7%	62	6.1%
家族・人間関係	373	7.2%	76	7.7%	95	8.5%	84	7.7%	71	7.0%	47	4.6%
授乳	313	6.0%	48	4.9%	70	6.3%	63	5.8%	62	6.1%	70	6.9%
予防接種	247	4.7%	48	4.9%	57	5.1%	53	4.9%	50	5.0%	39	3.8%
性格、行動、社会性	150	2.9%	35	3.5%	45	4.0%	27	2.5%	32	3.2%	11	1.1%
発育・発達	133	2.6%	25	2.5%	33	3.0%	32	2.9%	26	2.6%	17	1.7%
食事に関する問題	126	2.4%	20	2.0%	27	2.4%	23	2.1%	29	2.9%	27	2.7%
教育	98	1.9%	21	2.1%	20	1.8%	29	2.7%	20	2.0%	8	0.8%
虐待・虐待予防	28	0.5%	4	0.4%	7	0.6%	6	0.6%	8	0.8%	3	0.3%
アレルギーに関する問題	26	0.5%	6	0.6%	10	0.9%	3	0.3%	5	0.5%	2	0.2%
社会資源の活用	13	0.2%	1	0.1%	2	0.2%	4	0.4%	4	0.4%	2	0.2%
その他	12	0.2%	4	0.4%	2	0.2%	3	0.3%	1	0.1%	2	0.2%
計	5,215	100.0%	986	100.0%	1,117	100.0%	1,087	100.0%	1,009	100.0%	1,016	100.0%

表9 育児相談(5,215件)の主な内容

	①	件数	②	件数	③	件数	④	件数
	子供の病気、手当	2,513 (48.2%)	事故相談	779 (14.9%)	日常生活	404 (7.7%)	家族・人間関係	373 (7.2%)
主な内容	かぜの症状	903	誤飲・誤嚥	292	泣き	122	育児不安	278
	消化器症状	580	転落	145	睡眠	38	家族内の人間関係	46
	皮膚症状	328	衝突	129	しつけ	32	近所との付き合い方	35
	感染症	197	転倒	122	トイレトレーニング	32	職場関係	10
	耳鼻咽喉症状	96	熱傷	25	入浴・清潔	32		

	⑤	件数	⑥	件数	⑦	件数	⑧	件数
	授乳	313 (6.0%)	予防接種	247 (4.7%)	性格、行動、社会性	150 (2.9%)	発育・発達	133 (2.6%)
主な内容	授乳方法	84	副反応	166	言うことを聞かない	45	発育の評価	45
	吐乳、溢乳	67	接種時期・方法	46	いじめる・いじめられる	21	精神発達	30
	授乳と薬	56	効果	14	習癖	18	運動発達	17
	乳汁を飲まない	30			赤ちゃん返り	12	言語発達	15
	卒乳	17			友達と遊べない	8	体重増加不良	6

	⑨	件数	⑩	件数	⑪	件数	⑫	件数
	食事に関する問題	126 (2.4%)	教育	98 (1.9%)	虐待・虐待予防	28 (0.5%)	アレルギーに関する問題	25 (0.5%)
主な内容	離乳食・幼児食	52	幼稚園、保育園	41	子どもへの虐待	26	食物アレルギー	18
	飲まない、食べない	28	小学校	40	親への支援	12	気管支喘息	2
	食事のしつけ	10	中学校	14			アトピー性皮膚炎	2
	離乳準備	3					アレルギー疾患	2
	飲み込まない・噛まない	2					花粉症	1

	⑬	件数
	社会資源の活用	13 (0.2%)
主な内容	子育て支援	9
	救急医療情報センター	4

編集	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 〒474-8710 大府市森岡町尾坂田 1 番 2 TEL 0562-43-0500 内線 4042
発行	平成 24 年 4 月